

令和6年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	9	学校名	添上高等学校
----	---	-----	--------

1. 事業内容について

取組・活動・事業名等	曾爾村探究プロジェクト
教育課程上の位置付け・目標又は活動のねらい	普通科人文探究コースが「総合的な探究の時間」を活用して取り組んでいる曾爾村探究プロジェクトを通して行う。曾爾村が抱える様々な問題を学習し、その解消に向けた方策を考え、発信することを通して、探究のスパイラル（課題設定→情報収集→情報の整理・分析→まとめ・表現）を身に付ける。
連携・協働相手	曾爾村、国立曾爾青少年自然の家、そののわの台所 K a t t e
地域と共有している目標・課題等	曾爾村の魅力発信、観光資源の見直し、地場産業の活性化、人口減少・伝統文化の継承等の問題に対して高校生の視点で改善策を提案
取組・活動の内容（生徒の主体性、具体的活動、連携・協働内容など）	
<p>1年次の5月に曾爾村・青少年自然の家から講師を招き、曾爾村の現状について学習をし、曾爾村が抱える様々な問題について4グループに分かれ、探究課題の設定を行った。8月に曾爾村でフィールドワークを行い、グループごとに課題解決に向けた提案をした。2年次には、クラス全体で曾爾の特産品を使った料理を作り、曾爾村の方にレシピの提案を予定していたが、天候の関係で実施できなくなり、校内にて試食会を行った。11月には、曾爾村の特産品を広めるため、天理本通り商店街のイベントに参加。12月に国立青少年教育振興機構が主催する”地域探究プログラム”で、曾爾村探究プロジェクトの内容を発表し、奨励賞を受賞した。</p>	

2. 事業の成果と課題

曾爾村の活性化に向けた今回の探究活動を通して、生徒たちは自ら考え、何度も現地に出向くことで行動力がついたという事に大きな成果を感じた。また、曾爾村や天理市でのイベントに参加し、多くの人との関わりの中で、コミュニケーションを取る事の素晴らしさを感じると同時に、これまで知らなかった曾爾村の魅力を知り、より一層生徒たちの興味関心が高まった。また、イベントでの出店は生徒たちにとっても初めての経験で、商品の見せ方やお客さんとのやりとりの仕方などに苦勞するなど、課題は多々あったが、曾爾村の魅力を伝えて商品が売れた時の達成感を感じることができた。

今後は、次年度の1・2年生や企業などとも協働して商品開発に携わることなど、魅力発信できる場を増やしていきたい。

